

ワークショップ挨拶

本日は、「マルチエージェント・シミュレーションと社会科学の方法」と題するワークショップにご参加下さり、ありがとうございます。

台風が近づいており、あいにくの天候の中、わざわざお出でくださったことにお礼申し上げます。

このワークショップは、文部科学省（今年から日本学術振興会）の科研費の1分野である学術創成研究費をいただいて進めている「マルチエージェント・シミュレータによる社会秩序変動の研究」の活動のひとつです。これは2003年に始まった5年計画のプロジェクトで、今年が3年目の折り返し地点です。そこで、ワークショップを企画した次第です。

私が言うまでもなく、マルチエージェント・シミュレーションないしエージェントベース・シミュレーションは、理工系では既に広く認知され、理工系に近い分野での社会の研究、たとえば社会工学でも急速に浸透しています。しかし、普通の社会科学の研究動向を見てみると、マルチエージェント・シミュレーションは相変わらず、小さなニッチで、規模の小さいグループが少数、活発に活動している状況です。

「マルチエージェント・シミュレータによる社会秩序変動の研究」プロジェクトの目的は、第1に、ごく普通の社会学者にも使えるシミュレータを開発し、普及させ、マルチエージェント・シミュレーションへの障壁を下げることに、そして第2に、自ら率先して、マルチエージェント・シミュレーションの有効性を研究によって示していくこと、の2つです。まだ道半ばですが、このワークショップを一つの糧にして、さらにプロジェクトを進めていきたいと存じます。

そこで、たとえ小規模でも、われわれプロジェクト関係者にとっただけでなく参加者にとっても実りの大きなワークショップになるようにめざしました。ワークショップですから、ディスカッションを中心にしてお互いを啓発することが趣旨です。ですが、話題提供・情報提供をしていただくという意味で、われわれのプロジェクトの関係者だけではなく、日本でマルチエージェント・シミュレーションを社会科学の方法として手がけていらっしゃる研究者を御三方をお招きしました。また、海外からも、この分野で活躍されている3名の研究

者をお招きしました。お忙しいなか、ご報告を快諾して下さった皆様には、心よりお礼を申し上げます。

今日と明日の2日にかけて行う国際ワークショップの目的は、マルチエージェント・シミュレーションの社会科学の方法としてどのような可能性をあるかを率直に議論することですが、その柱は、大きく分けて2つあり、本日と明日に分けてみました。まず本日は、日本におけるマルチエージェント・シミュレーション研究の一端を、お互いに披露しあうことです。そして海外からの参加者にも日本でも研究活動が始まっていることを知っていただきたいと思います。その意味で、本日のワークショップは日本語中心にしてみました。

また、午前中は、日本の現状を示すという本日のワークショップの趣旨と関連させて、われわれのプロジェクトに関連している二種類のシミュレータを紹介させていただきました。日本から海外に発信することをめざして、英語版も用意いたしました。午前中のセッションには、予想を大幅に上回る方々にご参加下さり、大変うれしく思うと共に、ソフトに十分触れていただくことができず、申し訳なく思います。これだけのニーズがあることが判りましたので、後日改めて、長時間の本格的なチュートリアルを企画させていただきます。

明日は、海外からの研究者のご報告を含めて、4つの報告とディスカッションを英語でおこなうワークショップを企画しました。マルチエージェント・シミュレーションの社会科学の方法としての可能性について、とことんディスカッションをしたいと思います。

本日は、この分野での先達の方々もご出席です。大変に光栄であるとともに身の引き締まる思いもいたします。ワークショップではどうぞ、忌憚のないご意見をお聞かせ下さい。

このように、マルチエージェント・シミュレーションのベテランも、これから活用したいという希望を持っていらっしゃる方も参加なさっています。せっかくの機会ですので、是非、皆様にはレセプションまでお残りいただいて、ワークショップの議論を続けて、歓談と懇親の場としてご利用下さるようお願い申し上げます。

なお、個人情報の保護の観点から、ワークショップ参加者名簿をお配りしておりません。ご不便をおかけしますがご了承ください。また、名札にはお名前のみ記入してあります。お差し支え無い方は、どうぞ所属や肩書きをめいめい

書き込んで下さると幸いです。

挨拶が長くなりましたが、それではこれからワークショップに入りたいと存じます。前半は私の司会で、4つの報告を拝聴することにし、休憩の後、田中明彦先生の司会でディスカッションをしたいと思います。

プロジェクトリーダー

山影進（東京大学）